

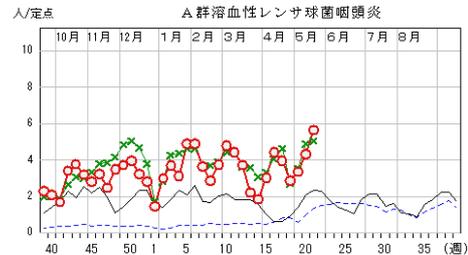
# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第21週 2024年5月20日（月）～ 2024年5月26日（日） 2024年5月30日作成

## ☆定点<sup>※</sup>報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

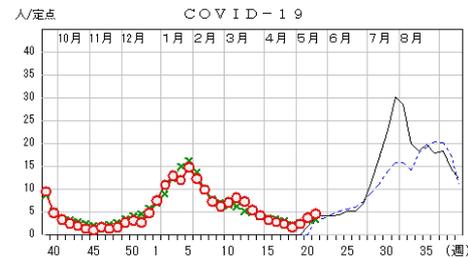
### （1） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第21週の報告数は249人で、前週より59人多く、定点当たりの報告数は5.66であった。  
 年齢別では、10～14歳（41人）、7歳（31人）、4歳（30人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（24.40）、県央保健所（5.00）、五島保健所（4.67）であった。



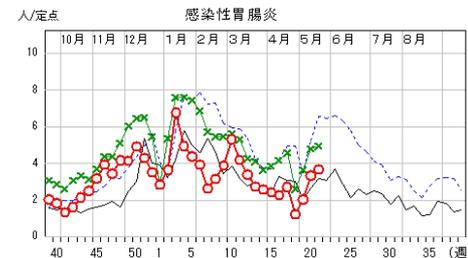
### （2） 新型コロナウイルス感染症

第21週の報告数は321人で、前週より59人多く、定点当たりの報告数は4.59であった。  
 年齢別では、50～59歳（38人）、60～69歳（37人）、10～14歳（36人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（8.50）、県北保健所（8.00）、五島保健所（7.25）であった。



### （3） 感染性胃腸炎

第21週の報告数は162人で、前週より15人多く、定点当たりの報告数は3.68であった。  
 年齢別では、1歳（27人）、10～14歳（18人）、3歳（16人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（8.83）、県央保健所（6.71）、県北保健所（5.00）であった。



○ 当年(長崎県)      — 前年(長崎県)  
 × 当年(全国)      - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

## ☆上位3疾患の概要

### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第21週の報告数は249人で、前週より59人多く、定点当たりの報告数は5.66でした。地区別にみると県南地区（24.40）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えています。多くの保健所で前週より増加していますので、今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第21週の報告数は321人で、前週より59人多く、定点当たり報告数は4.59でした。地区別にみると、県南地区（8.50）、県北地区（8.00）、五島地区（7.25）は他の地区より多くなっています。多くの地区で前週より増加していますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第21週の報告数は162人で、前週より15人多く、定点当たり報告数は3.68でした。地区別では、佐世保地区（8.83）、県央地区（6.71）、県北地区（5.00）は、他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやサポウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

**★トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう**

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる3月から11月に増加します。

SFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴うこともあります。重症化すると死亡することもあり、致死率は10～30%といわれています。

県内では**2024年第21週までに11件**の報告があり、例年の同時期より多くなっています。2019年以降に報告された患者は、40～90代で、70代と80代で75%を占めています。

近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

発生状況、感染対策について、長崎県感染症情報センターホームページ内「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」にも掲載しています。

（参考）厚生労働省 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>

（参考）国立感染症研究所 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/sa/sfts.html>

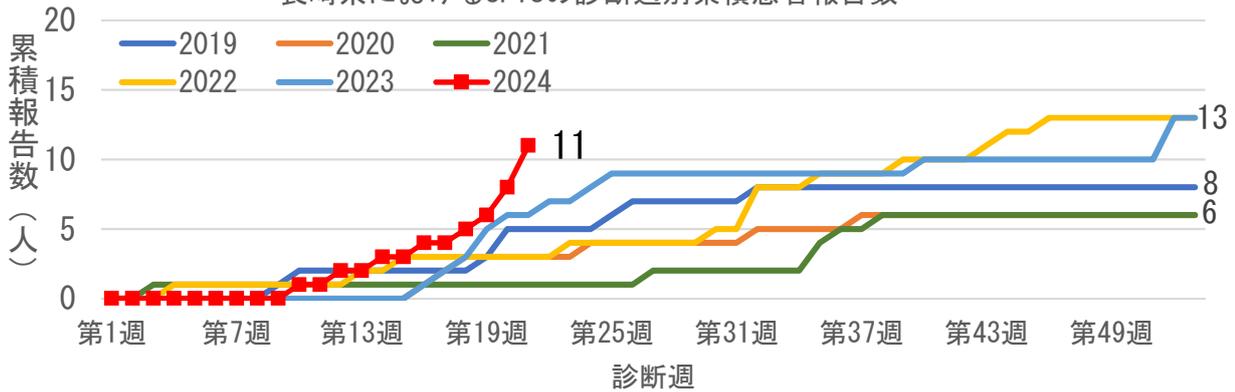


長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

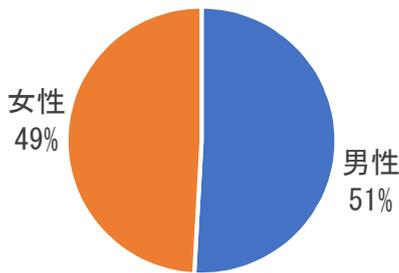
年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
SFTS	8 (5)	6 (3)	6 (1)	13 (3)	13 (6)	11
日本紅斑熱	15 (2)	18 (1)	28 (6)	22 (2)	14 (4)	5
つつが虫病	1 (0)	11 (0)	14 (0)	7 (0)	15 (3)	1

※( )は第21週までの発生件数

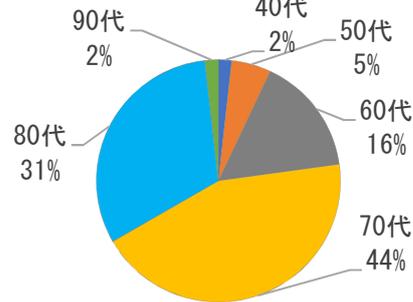
長崎県におけるSFTSの診断週別累積患者報告数



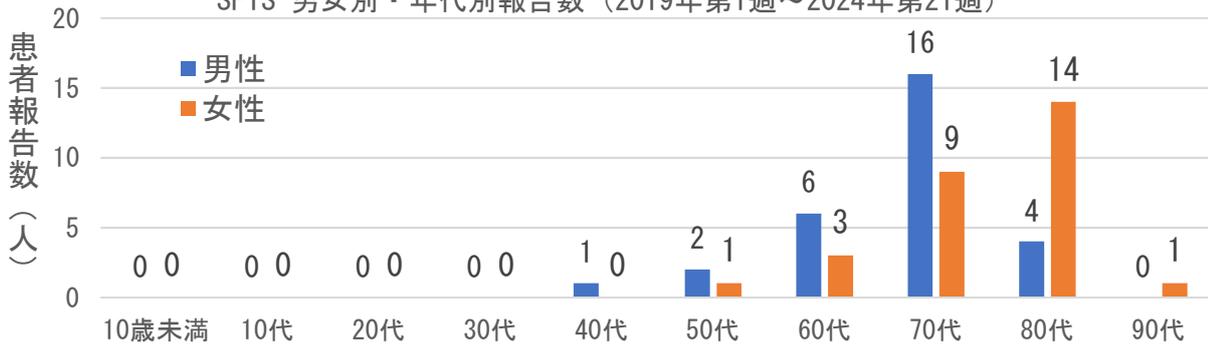
SFTS 性別割合 (2019~2024年第21週)



SFTS 年代別割合 (2019~2024年第21週)



SFTS 男女別・年代別報告数 (2019年第1週~2024年第21週)



**☆トピックス：6月1日~7日は、HIV検査普及週間です**

厚生労働省は、毎年6月1日から6月7日までの1週間を「HIV検査普及週間」と定め、普及啓発イベントを実施しています。

HIV（ヒト免疫不全ウイルス）は、免疫のしくみの中心であるヘルパーTリンパ球（CD4細胞）という白血球などに感染し、免疫力を低下させていきます。適切な治療が施されない場合、「後天性免疫不全症候群（AIDS）」を発症します。近年は治療薬の開発が飛躍的に進み、早期に服薬治療を開始すれば、通常の生活を送ることが可能となっています。

早期発見、早期治療により発症を防ぐためには、検査を受けることが重要です。県内の保健所において、HIVの個別相談、無料匿名の検査を実施しています。それぞれ事前の連絡、予約が必要となりますので、検査、相談をご希望される場合は、最寄りの保健所にご連絡ください。

**☆トピックス：梅雨入り前に蚊の発生源を減らしましょう**

蚊媒介感染症は、病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症です。主な蚊媒介感染症には、デング熱や日本脳炎などがあります。日本脳炎以外の蚊媒介感染症は海外からの輸入感染症としての報告がほとんどですが、デング熱では2014年に国内感染例が報告されました。

蚊媒介感染症を予防するためには、蚊に刺されないことが重要です。屋外の蚊が多い場所で活動する場合は、できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用しましょう。あわせて、蚊の発生を防ぐ環境づくりも有効です。幼虫が発生しそうな屋外に放置された古タイヤや空き容器など梅雨入り前に片付けましょう。また、下草を刈るなど、成虫が潜む場所をなくしましょう！

(参考) 厚生労働省 蚊媒介感染症

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164483.html>

◆全数届出の感染症

- 2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 男性（70代・1名）
- 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 患者 男性（60代・1名） 女性（70代・1名、80代以上・1名）  
日本紅斑熱 患者 女性（70代・1名）
- 5類感染症（全数把握対象）：侵襲性インフルエンザ菌感染症 患者 男性（80代以上・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第16~21週、4/15~5/26)

疾患名	定点当たり患者数					
	16週	17週	18週	19週	20週	21週
	4/15~	4/22~	4/29~	5/6~	5/13~	5/20~
インフルエンザ	1.40	0.90	0.53	0.30	0.17	0.16
新型コロナウイルス感染症	2.80	2.42	1.69	2.43	3.74	4.59
RSウイルス感染症	0.48	0.84	0.43	0.77	1.11	1.64
咽頭結膜熱	1.43	1.12	0.84	1.02	0.95	0.70
A群溶血性レン球菌咽頭炎	4.43	3.95	2.86	3.36	4.32	5.66
感染性胃腸炎	2.27	2.72	1.23	2.02	3.34	3.68
水痘	0.09	0.16	0.02	0.18	0.09	0.30
手足口病	0.68	0.51	0.68	0.68	1.27	1.45
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02	0.02				
突発性発しん	0.41	0.23	0.18	0.36	0.50	0.25
ヘルパンギーナ		0.05		0.02	0.16	0.18
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05		0.02		0.02	0.05
急性出血性結膜炎				0.13		
流行性角結膜炎	0.38	1.00	0.38	0.63	0.38	0.25
細菌性髄膜炎		0.08				
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.08	0.08		0.08	0.17
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第21週、5/20~5/26) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.16	0.09	0.35			0.27	0.13				
新型コロナウイルス感染症	4.59	2.91	3.94	6.00	1.50	4.00	8.50	8.00	7.25	4.00	3.33
RSウイルス感染症	1.64	1.67	1.90		1.75	1.57	1.00	6.33			0.50
咽頭結膜熱	0.70	0.50	0.20		1.25	1.00		2.67	1.00		1.50
A群溶血性レン球菌咽頭炎	5.66	2.50	3.70		3.25	5.00	24.40	3.00	4.67	1.50	0.50
感染性胃腸炎	3.68	8.83	2.00	0.50	4.75	6.71	1.40	5.00			
水痘	0.30	0.50	1.00								
手足口病	1.45	1.67	2.10	1.00	2.50	1.57	0.60	2.33			
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.25	0.67	0.20	0.50		0.57					
ヘルパンギーナ	0.18		0.30	2.00		0.14					
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05		0.10			0.14					
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.25						2.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.17		0.67								
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											